

血圧脈波検査とは



両腕と両足首に血圧測定用カフを装着し、両手首・両足首での脈波の伝わる速度（脈波伝播速度：PWV）と、両足首の血圧と上腕の血圧の比（足関節上腕血圧比：ABI）を測定します。これらの結果から動脈の硬さ（心臓足首血管指数：CAVI）や血管の詰まりの程度を調べます。

検査はベッドに上向きに寝ていただき、両腕と両足にカフを巻いて脈波と血圧を測定します。同時に心電図と心音図も記録し、心臓の拍動する周期と両腕・両足首の脈波を合わせて調べていきます。両腕・両足首は何度か加圧して測定しますので、検査は10分～15分程度かかります。

血圧脈波検査でわかること



動脈硬化などによって足の血管壁が厚くなり、血流が悪くなるとPWVは速くなり、ABIは低くなります。高度の動脈硬化が起こると、ABIは高くなることもあります。また、動脈硬化が進むと、CAVIは高くなります。このような変化が足の血管に起こっていないか、またその程度を調べることができます。

*シャントや点滴が入っている場合、手術などでどちらかの腕の血圧測定を禁じられている場合、検査時にお声がけください。

血圧脈波検査のあれこれ Q&A よくある質問にお答えします

Q：検査中は、動かない方が良いですか？

A：動いてしまうと、正確に測定することができません。測定中は、動かず安静にお願いします。また心音マイクに雑音が入らないように、できるだけ声を出さないようにお願いします。

Q：何度も測定することがあるのですが、なぜですか？

A：腕や足首に巻いているカフが緩かったり、心音が上手く記録できていない場合、調整のため何度か測定する場合があります。

Q：検査の体勢は決まっていますか？

A：検査時は、通常ベッドに上向きに寝ていただき、両腕・両足首の血圧を測定します。体を起こしている状態では、寝ている状態よりも心臓に戻る血流が少なくなるため、血圧が低くなる可能性があります。基本的には上向きで検査しますが、痛みなどで上向きが困難な場合は、担当技師にお伝えください。

